時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時

時事新報

明治廿七年二月九日　金曜日
舊曆甲午正月四日（壬午）
日出午前六時三十六分
入午後五時三十五分
月出午前八時二十一分
入午後八時二十九分
滿潮午前七時三十九分
午後七時五十四分
（西曆一千八百九十四年）
年始より四十日
年末まで三百二十五日

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に揭ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘〇一箇月　前金五拾錢〇三箇月　前金壹圓四拾五錢〇六箇月　前金貳圓八拾五錢〇一箇年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

●前金●　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一	日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津	一箇月	金拾三錢
二	南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國	一箇月	金六拾錢
三	北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋	一箇月	金三拾錢
四	香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲	一箇月	金六拾五錢
五	露領浦潮斯德、清國諸港	一箇月	金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●●●●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき筈に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐること尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に送りたる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

進取と平和

日本の國是は開國進取に在るのみと今更ら云ふまでもなけれども今日に至るまで果して其國是を實にしたりやと云ふに我輩の見る所にては尙は未だしと答へざるを得ず外國との交通は開國三十餘年來絕えず行はれて年を逐ふてます〳〵繁多に赴きたるは事實に疑ふ可らざる所なれども進取の點に至りては更に一事の見る可きものなし或は政府が百般の制度慣例を改めて西洋文明の風に倣ひたるが如き自から勉めて進取の政略と爲す所ならんかなれども是れは單に開國に伴ふたる自然の變化にして商賣貿易の途を開拓するの計畫は嘗て當局者の心頭に上りたることさへもなきが如し維新以來政府の政略を見るに征韓論、臺灣征伐の如き一時の變動は姑く擱き專ら無事平和を旨として進取の實を認めず啻に外政に於て然るのみならず內政の如きも亦同じく緩慢の一方にして商賣に殖產に大に國本を培養して外に對するの策を講じたることなし怠慢至極にして旣定の國是に對して申譯なき次第なれども幸なるは日本自然の國情他の奬勵保護を待たず自から發達進步の素質を備ふるの一事にして殖產の事業は次第に盛大に赴き製造品の如き外品と競爭して之を壓倒したるもの一にして足らず殊に外國貿易の如き非常の進步にして開國の當初に比すれば未だ四十年ならざるに殆んど四十倍の額に達し今後ます〳〵發達の望ありと云ふ此一點より見れば政府の政略は無事緩慢を事として內外共に進取の實なきも商賣殖產は其政略の如何に頓着せず獨り自から進步して止まる所を知らざるが如し日本の前途萬々歲なりと云ふ可し果して然らば今後は商賣一偏と覺悟して開國進取の國是を開國退守と改め陸海軍の如きは只體裁を備ふるに止めて其費用を他の用途に向け條約改正の如きは成るも可なり成らざるも可なり自然の成行に一任し政府の當局者は部內の任免黜陟を行ふの外、何事にも手を出さずして只枕を高ふして安眠する其安眠の中に國運は自から進步す可しと云ふ實に氣樂の沙汰にして是亦自から一種の安心法なれども顧みて世界の大勢を察し我立國の成行を思へば其安心も決して永久の策に非ざるを見る可し若も今の世界にして無事平和單に商賣一偏の世界ならんには只商賣上に國を開きたるのみにして政府の局に當るものは枕を高ふして永く鎖國の夢を夢みるも亦妨なけれども世界進取の風潮は日にます〳〵荒しくして獨り日本政治家の安眠を許さゞるを如何せん近くは東洋の有樣を見れば我近隣なる朝鮮の如きは殆んど亡國の狀を呈して其運命甚だ久しからざるが如し若しも自から支ふること能はずして他の强國に併せらるゝにも至らば我立國の爲めに事態の容易ならざるは今更ら云ふを待たず之に對するの用意は目下の急にして單に退守を事とするの時に非ざる可し又世界の形勢を察するに歐洲の或る二强國が東洋に於て衝突の端を發く數年の後を待たざる可しとは獨り我輩の私見のみに非ず內外の識者の說を同ふする所にして早晩免れざるの勢なれば此場合に臨んで獨立の體面を全ふし立國の安全を期せんには今日より豫め覺悟する所なきを得ざる可し右は立國自衞の急を述べたるものなれども更に國家經綸の大計を考ふればます〳〵進取政略の必要を見る可し我商賣貿易はます〳〵進步の望ありと云ふと雖も之を自然の發達に任せて滿足す可きに非ず大に海外の航路を擴張し日本の船舶をして世界の海上に橫行せしむるの一事は商賣貿易の發達を助るが爲めに是非とも必要の計畫なれども航海發達の歷史を見るに海外の航路を開て永遠の利を占めんとするには其航海の要路に適當なる碇泊所を有すること最も必要にして英國の新嘉坡又は香港に於けるが如き皆然らざるはなし今日差當り其場所を見出すは容易の事に非ざれども此邊の考は豫め當局者の胸臆に蓄へざる可らず又植民の計畫に至りては取りも直さず海外に領地を求むることにして其事たる進取の氣象あるに非ざれば行ふ可らず南洋邊の絕海孤嶋に數千に足らざる人民を送りて單に出稼に從事せしむるが如き小計畫は我輩の取らざる所なり蓋し是種の進取政略を事として着々步を進むるときは端なく他國の利害と衝突して交涉の事端を生じ或は不祥の事を見るが如き場合もある可しと雖も進取と平和とは常に兩立するものに非ず旣に進取を以て國是と爲す以上は時として非常手段を要するの覺悟なかる可らず若しも不慮の事端を恐れて飽までも無事緩慢に安んずるの心ならんには開國進取の國是は一切止めにして鎖國退守を旨とするの外なからんのみ

官報

〇勅令

朕傳染病豫防上必要ノ諸費ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治二十七年二月七日

內務大臣　伯爵井上馨

勅令第十四號

第一條　府縣知事ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ市町村ヲシテ左ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

一　種痘ニ關スル諸費
一　豫防消毒ニ要スル諸費
一　避病院隔離病室又ハ隔離所ニ關スル諸費
一　豫防救治ノ爲メ雇入タル醫師ニ關スル諸費

第二條　府縣知事ニ於テ傳染病流行ノ際ニシテ前條ニ記載シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ市町村ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ其ノ負擔ニ堪ヘサル實額ノ支出ハ府縣稅（府縣制ヲ實施セサル府縣ニ於テハ地方稅）ノ負擔トス

第三條　明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則第十三條第十四條第一項及第十五條第二項ノ費用ハ府縣稅（府縣制ヲ實施セサル府縣ニ於テハ地方稅）ノ負擔トス

雜報

〇孟買紀行

堀井卯之助

●●●●●絹と木綿縮の需要如何●●●●●

孟買にて身に絹布を纏ふものはパーシーの婦人に限り其他は通常の木綿幷に更紗等を用ふるのみなれば其需要は頗る僅少の額ならんと思ひの外統計表によりて印度に於ける絹物類の輸入を取調ぶれば其多額なる輸入品中の第四に位し實に二千八百十七萬六千五百十ルーピーに達せり左れば其輸出先も數箇國の多きに亘るは勿論の事なれども余が孟買にて調査したる處によれば多くは支那廣東省より輸出されたるものゝ如し就て見るに品質餘り上等ならざれども何も皆、赤、桃色若くは黃、靑、綠、花色などに染上たる者にして縞物は一切輸入なしパーシー婦人の市中を散步する樣殊に目立ちて麗はしきは畢竟するに此種の絹布を身に纏ふが故にして紅白黃靑相絞め徐々進步を運ぶの姿は一種言ふべからざるの趣あり我國絹物類は廣東省にて製造したるものに比し其價格は不廉なるも品質の上等なるは素人と雖も一目以て之を見分くるを得べければ彼の羽二重甲斐絹類は貴婦人の嗜好に適すること疑なかるべしハンカチーフも亦婦人用として多少實行の望あり現に當地に於ける三井物產會社出張所にては其見本を取寄せ大に販路の擴張を圖り居るものゝ如し木綿縮は男子の洋服用として熱帶地方には其需要少なからず孟買にても

一二の見本を取寄せ販賣の計
品質丈夫ならざるが故に人の之
此地は炎熱酷しく爲めに汗の
れば每日の洗濯に大抵の衣服は
きに至ては決して永久の用に堪
絆とか云はるゝ人の外は容易に
ば一般の衣服は如何なるものか
て製造したる白木綿にして其織
く只々丈夫一方なれば外見は太
れども幾回洗濯するも破るゝが
の事情より考ふれば此地に於け
多きに達せざるものゝ如し近時
係る木綿反物中碁盤縞のものは
ば印度人相手の商法は總て我國
き心得こそ最も肝要ならんか

●●●●簾と蓆の販路●●●●

市中の家屋中簾を窓に釣しある
若くは美人の姿を畫き之を室內
暖簾とて竹と南京玉を組合せた
すは此地一般の流行にして其價
けり此竹暖簾なるものは我國商
などに釣しあるものと一般にし
りては文字若くは花形などを顯
邦より同品を此地に輸出せんと
など云へる文字を畫出すも妙な
に用ふるもの多ければ安價とす
出を謀らば隨分多額の需要ある

●●●●硫酸幷に樟腦の賣行●●●●

印度人は飲食用の器具には總て
に記載したるが此の如く其使用
ず孟買の如き都府にありても何
云へる大仕掛のものなく一般
皆鍛冶屋の手によりて製造せら
の數は中々多く是等は僅かの原
器具の製造に從事するが如き有
案外に多く今回大坂の硫酸製造
輸出したるに就ても土人の內
を結ばんとするもの多く今後
は危險物なれば船によりては其
假令ひ之を搭載するも發火の恐
せらるゝが如きことあるによ
きにしもあらず左れど我廣嶋
て此種の物品を搭載するも別
亦格段に高からずと云へば今
ん樟腦は未だ孟買に輸出され
の爲め少しく輸送されたり其
きも實際需要の額は決して僅
なる貿易品となるに至るやも

〇北埼玉郡に於ける暴行

以て縣會議員の半數改選を行
中なるが一昨々夜北埼玉郡騎
[illegible]は發砲若くは擊刀にて同所
の表裏より襲擊せしに却て
て自由黨は幸に無事なりし
なるが元來國民派が斯る暴行
青年會員が國民派の演說を妨